



貧困を なくそう















『参加から学ぶ SDGs』

~フードバンク北九州ライフアゲインの活動を通して~





令和 2 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



































🌄 NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲイン

参加から学ぶ SDGs

~フードバンク北九州ライフアゲインの活動を通して~

令和 2 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン

目次

1	SDG s とは?	1
	(1) SDGsとは?	1
	(2) SDG s の成り立ち	1
	(3) 環境とのかかわり	2
	(4) SDGs の特徴	3
	①バックキャスティング(未来から今を見る)	3
	②あらゆる人がステークホルダー	3
	③すべての目標がつながっている	3
2	ライフアゲインの活動(プロフィール及び事業)	4
	(1)ライフアゲイン・プロフィール	4
	(2)ライフアゲインがめざす SDG s への貢献	6
	①ライフアゲインの取組	6
	②主に寄与するゴール	6
	③連鎖的に関連するゴール	7
	(3) ライフアゲインの事業と関係する SDG s ターゲット	. 10
	①フードバンク事業	. 10
	②食のセーフティーネット事業	. 12
	③ファミリーサポート事業	. 14
	④普及啓発事業	. 16
3	活動参加者・支援者などの声	. 18
	(1) スタディーツアー体験	. 18
	(2) ボランティアの活動を通じて	. 20
	(3) ライフアゲイン支援者の声	. 22
	(4) ライフアゲインの支援を受けて	. 25
4	持続可能な地域づくりのために	. 26
5	参考情報	. 28
	(1)ライフアゲインから提供できる活動・資料	. 28
	(2)SDG s 参考情報	. 29

I SDGsとは?

(1)SDGsとは?

2015 年 9 月、ニューヨークの国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択されました。この目標が「持続可能な開発目標=Sustainable Development Goals (SDGs)」です。SDGsには17のゴールがあり、それぞれのゴールには、ゴールを達成するための具体的な達成時期や数値を示す「ターゲット」があります。

ゴ ー ル:重要項目ごとに到達点を示した地球規模レベルの目標 ターゲット:ゴールを踏まえ、より具体的な達成時期や数値を示したもの。それぞれの国 が事情に応じて設定する。

(2) SDGsの成り立ち

SDGsは、2000 年に国連で合意された MDGs(ミレニアム開発目標 2001~2015年)の後継目標です。ミレニアム開発目標は、世界の貧困、飢餓、衛生、初等教育などの課題に対する8つのゴールがあり、その対象地域は、どちらかというと「途上国」でした。この MDGsから約 15 年後にできた SDGsは、ゴールが 17 に増え、途上国だけでなく、先進国も含めています。わずか 15 年間ですが、地球規模で状況や課題の変化が生じてきていることがわかります。

ミレニアム開発目標 (MDGs) (2001~2015 年)



貧困、飢餓、初等教育、乳幼児死亡率、妊産婦の健康、HIV/AIDS、マラリアの撲滅など

特徴

- ・開発途上国の課題が中心
- ・社会的な目標が多く、環境や経 済の要素が少ない

持続可能な開発目標 (SDGs) (2016~2030年)



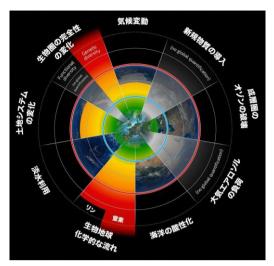
貧困、飢餓、健康、教育、エネルギー、 都市問題、経済成長、気候変動、生 物多様性、パートナーシップなど

特徴

- ・途上国だけでなく先進国の課題も
- ・環境や経済の目標が加わる

(3)環境とのかかわり

MDGsでは、「経済」「環境」に関わる目標が不十分であったという反省がされたとともに、環境については、新たな考え方である「地球の限界(プラネタリー・バウンダリー)」により、地球システムの限界が明らかにされてきました。これは、地球システムに影響のある項目を9つに区分し、人間が安全に活動できる境界を科学的に定めています。この境界を超えると、人間が依存する自然資源に対して、とりかえしのつかない変化が引き起こされるというものです。すでに、気候変動や生物多様性などは、境界を越えていると言われています。



- 限界を超え、破壊的な変化を起こす
 - 限界に近づきつつある
- 地球の限界の領域内(青線の内側)

出典: Will Steffen et al.[Planetary boundaries: Guiding human development on a changing planet をもとに作成

(4) 環境・社会・経済の調和

このような地球環境の限界などの研究により、環境、経済、社会の 3 つの柱のうち、環境は他の 2 つの柱の基礎となる大前提であることが明らかにされました。地球環境の限界を超えて、持続可能な発展はあり得ません。

加えて、ゴールの達成においては、あらゆる主体が連携し協力し合う「マルチステークホルダーパートナーシップ」が重要だとされています。政府、市民社会、民間セクター、国連機関などのパートナーシップなしには、SDGsは達成できないことが強調されています。



出典: Stockholm resilience Centre 資料に加筆

http://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html

(4) SDGs の特徴

①バックキャスティング(未来から今を見る)

SDGsは「未来のあるべき姿」から目標が作られています。その中には、今の状況からすると達成が難しいと思われるような目標も含まれます。しかし、このような「野心的な目標」を掲げることで、今の私たちの現在の行動や企業の活動内容、社会の仕組みなどを根本から見直すことが必要であることに気が付いてきます。未来の着地点に立って現在の在り方を見る。そのときに気づいたことや行動の変革が SDGs目標達成の大きな原動力となっていくと言われています。



②あらゆる人がステークホルダー

これまで企業や団体の SDGsへの関りは、これまでの事業活動や団体活動が、SDGs の 17 のゴールとどのように関わっているかといった紐づけだけに集中していました。しかし、これだけでは十分に SDGsに寄与しているとは言えません。これからは、SDGsが持つ未来像を見据え、新しい価値を創造したり、思い切って仕組みを変えたりすることが必要になります。これらの考え方をステークホルダー間で共有することや持続可能な社会づくりを議論することだけでも、SDGs達成に寄与する方向へ社会を変えていくことが期待できます。

③すべての目標がつながっている

SDGsは 17 のゴール、169 のターゲットで構成され、経済・環境・社会の諸課題を包括的に解決していく必要があります。これらすべての目標をすべて達成しようと考えると達成はむつかしいように感じます。しかし、SDGsの特徴は、これらすべての課題が相互に繋がっており、一つの課題を解決するにしたがって、その他の目標の解決にもつながることです。そのため、一つのゴールに向かって課題解決の具体的な取組を行っていくと、その他のゴールに関わる課題が見えてきます。社会の中にある多くの課題は、相互に複雑に絡み合い、関係しあっています。結果として一つのゴールへの取組を行うことは、17 のゴールすべてや、これに近い数の目標を解決することに繋がっていくことになります。

2 ライフアゲインの活動(プロフィール及び事業)

(1) ライフアゲイン・プロフィール

Vision

私たちは『すべての子どもたちが大切』とされる社会の実現をめざしています。それは言い換えれば、一人ひとりの子どもの中に潜んでいる可能性が大切にされ、その可能性を尊敬し、かけがえのない存在として一人ひとりが愛される社会の実現を目指しています。

Mission

生まれ育った環境のために 満たされた食事ができない 十分な教育を受けられない 寂しい思いをしている子どもを 北九州市からゼロにする。

【ライフアゲイン年表】

2001年 4月 任意団体ハッピーアワークラブを設立し、子育て支援事業に取り組む.

2007年 4月 任意団体ミッションロープを設立し、自立支援などの活動に取り組む.

2013年 3月 北九州市八幡西区にコストコ社北九州店がオープンし、同社より食品の提供 が受けられるようになったのをきっかけに任意団体フードバンク北九州ライフ アゲインを設立.

アプインと設立.

2014年 I月 NPO法人化の検討を開始.

2014年 5月 NPO法人設立総会を開催.

2014年 IO月 NPO法人認証を受ける(平成 26 年 IO 月 7 日北九州市第 204 号).

2016年 9月 北九州市子ども食堂モデル事業に採択される(2年間).

2017年 6月 フードバンクを活用した食品ロス削減推進共同プロジェクトに採択(3年間).

2019年 2月 第1回環境首都北九州 SDG アワード ESD 表彰 奨励賞受賞.

2020年 3月 2019 北九州 SDGs 未来都市アワード SDGs 大賞受賞.

2020年 10月 認定 NPO 法人申請.



SDGs大賞 賞状

特定非営利法人フードバンク北九州ライフアゲインへの途

理事長 原田昌樹

私は幼い頃からずっと劣等感のかたまりでした。自分が何をしたらいいのか、夢も自信もありませんでした。家は自営業で両親二人とも一生懸命働いており、いつも一人でご飯を食べていました。気持ちがいつの頃からか歪み、大学生の時に薬物依存症になって苦しみました。

薬物依存症からの回復を目指す中で「なぜこうなってしまったのか」と自分と向き合った時、本当はずっと寂しかったのだと気がつきました。幼い頃を遡ってみたら愛情に飢えていたことに気づいたのです。いつもまわりからどう見られているかを気にし、自分を良く見せようと嘘をつき、強がっていました。でも本当は、等身大の、ありのままの自分を認め、愛してほしかった。本当の思いを隠してきた結果、もがき苦しんでいたのです。

多くの大人の支援に携わって感じたことは、さまざまな課題の根っこに《孤立・貧困・障がい等の社会的ハンデ》が絡み合っているということ。そして、もう一つが幼少期に家庭が機能せず、愛情に飢えたまま大人になってしまったということでした。支援を長年続けた結果、大人になってこの心の空洞を埋め、生き方を変えていくことはとても難しく、できるだけ若い頃、子どもの頃、幼少期の頃により多くの愛情を誰かが注いであげることが、回復の近道であることを実感したのです。それらの実体験が、ライフアゲインの活動方針を決めていく根底にあります。

このような支援活動の中でフードバンクを知り、困窮者へのアプローチにフードバンク活動が有効であると認識し、2013年3月に福岡県内初のフードバンク団体「フードバンク北九州ライフアゲイン」を設立し、事業を開始しました。そして現在、子どもの貧困を含めた負の連鎖を断ち切るためのファミリーサポート事業を加え、この2本柱を軸に活動を展開しています。

令和に年号が変わった年は、《子どもの権利条約》が国連で採択されて30周年。また、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals、SDGs エスディージーズ)に対しても、北九州市が《SDGs 未来都市》として選定され、2030年までに達成すべき目標も定められました。しかし、どれだけ目標を定めても、私たち一人ひとりが地球の抱えている課題、すなわち私たちの生きている社会の課題を自分事として捉え、私の問題として、私ができるアクションを起こさなければ、目標は目標だけで終わるでしょう。そして、持続可能な社会を子どもたちの未来に残せなくなるのです。

『参加から学ぶ SDGs~フードバンク北九州ライフアゲインの活動を通して~』が意図することは、持続可能な社会を創るために、あなたにもできることがあると知り、何ができるのかを探し、あなたが行動を起こすことにあります。この本を読まれた方すべてが、ともに走り、次世代、また次々世代にも続く持続可能な社会の創造の一助となられることを心から願っています。

(2) ライフアゲインがめざす SDGsへの貢献

①ライフアゲインの取組

当団体は、「すべての子どもたちが大切とされる社会」の実現を目指し、子どもがその 生育環境によって左右されることなく、未来を選択できる社会づくりに努力しています。

団体の活動は主に2つの取組から成り立っており、ひとつは、「食品ロスの削減」、もう ひとつは、この食品ロスを活用した「子どもの養育支援」です。

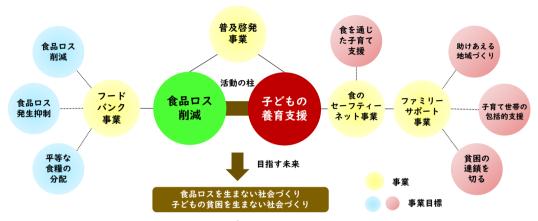


図 ライフアゲインの取組と目指す未来

食品ロス削減のために、農家や食品関連事業者、家庭からさまざまな事情により食べられることのない食品を回収して管理し、必要な方に渡しています。また、食品を渡すことをひとつのきっかけとし、生活困窮者(主に母子世帯)の生活や子育ての悩みに寄り添い、食料支援だけでなく、心身の健康や子どもの学習、進学、就業なども含めた包括的支援ができるように取組を進めています。

私たちが目指しているのは、食品ロスの削減や食料支援ではなく、食品ロスを生まない 社会づくりや困窮者を生まない社会づくりです。

これらを実現するには、当法人だけでは不可能です。そのため、地域の方々の理解を深めることも重要だと考えています。

②主に寄与するゴール

ライフアゲインの活動は、SDGsのゴールI(貧困)、3(健康)、4(教育)、I2(持続可能な生産・消費)、I7(パートナーシップ)に寄与することを目標としています。そのゴールの中の、具体的に関連するターゲットは、次ページにまとめています。

③連鎖的に関連するゴール

ライフアゲインでは、主に 5 つのゴールに対してアプローチを行っていますが、これにより、他のゴールに貢献することも期待できます。例えば、食品ロスを削減することは、食品廃棄に関わるエネルギーの削減により、二酸化炭素 (CO_2) の削減につなげることができます。これにより、地球温暖化を原因とする気候変動を抑えることができます(ゴール 13)。また、食料生産に使用される大量の水を節約できることや(ゴール6)、食品を大切にすることで、陸や海の自然生態系を守る意識を醸成することも期待できます(ゴール 14、15)。

一方で、子どもの養育環境をサポートすることにおいては、主に女性がより活躍できる 環境を作ったり、女性がより社会で働きやすく、労働生産人口を増やすことにも寄与する ことなどが考えられます。

このように、SDGsの入り口は一つのゴールかも知れませんが、達成に向けてはさまざまなゴールも同時に解決することに繋がっていきます。

SDGsの各ターゲットは、途上国の深刻な課題解決も含めた広範囲の目標となっており、 国や地域によってはその課題レベルに乖離が生じるものがあります。そのため、ここではこ の目標や指標をできるだけ地域の実情に合わせるため、政府の「持続可能な開発目標 (SDGs) 実施指針※」に基づき、解釈を読みかえています。

※2016年12月22日 SDGs推進本部決定

ライフアゲインが主に取組む SDGs (ゴール1, 3, 4, 12, 17)

3 すべての人に 健康と福祉を

生活困窮世帯に対し、食料支援のみならず、 栄養・健康環境の改善に寄与する支援を行い、 将来を担う子どもたちが、環境に左右されず に、明るく健康に育つようにサポートを行う



貧困を なくそう

生活困窮者への食料支援の活動を軸と し、当該者の自立に向けた包括支援を行う ことで貧困の連鎖を断ち切り、貧困を生ま ない社会づくりに貢献する



食べられるのに捨てられる食べもの(食品口 ス)を必要としている個人や団体に届けるこ とに加え、食べものを大切にする意識の醸成 を図る活動を行う



子どもたちの「生きる力」を育み、成人後、困難 に直面しても何度でも立ち上がることのできる スキルを醸成するための支援を行う



だれも排除しない 持続可能なまちへ



子どもの貧困削減



社会課題の解決に向けた パートナーシップ強化



行政機関や地域組織と連携することにより、 地域課題の洗い出し、および解決を図り、地 域全体で子どもの健全な成長を支えるプラッ トフォームを構築する

図 ライフゲインの取組が寄与する主な SDGsとその他のゴールへの貢献イメージ

ライフアゲインが目指すSDGsターゲットへの貢献

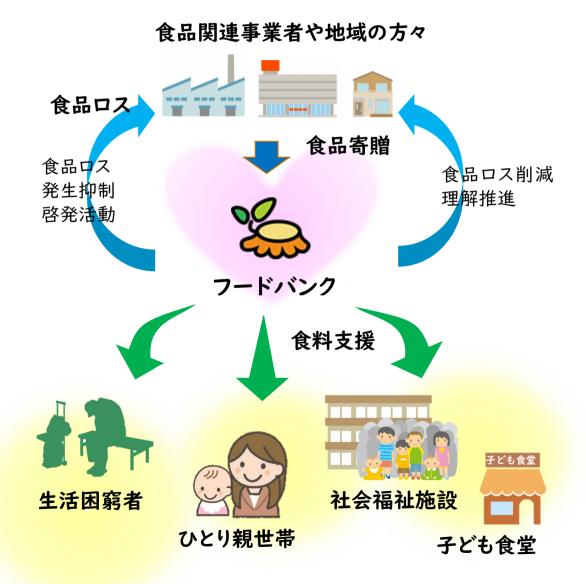
- 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。
- すべての国々、特に開発途上国の国家・世界規模な健康リスクの早期警告、リスク緩和およびリスク管理のための能力を強化する。 3.d
- 2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。
- 2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や 職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
- 12.3 2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける 食品ロスを減少させる。
- 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

- (3) ライフアゲインの事業と関係する SDGsターゲット
- ()フードバンク事業

a. 活動内容

ライフアゲインでは、食品関連事業者(農業、製造業、卸売業、小売業、外食産業)から 食品ロス(まだ食べられるのにさまざまな理由により流通できず、捨てられる食品)を寄贈 していただき、必要な方に渡す活動を行っています。また、一般の家庭から、お中元やお歳 暮などの贈答品、家庭で消費しきれない食品を、食品ロスになる前に寄贈していただいて います。

また、食品ロスを減らすだけでなく、食品ロスを発生させないような社会づくりにむけて、 検討やアプローチを続けています。

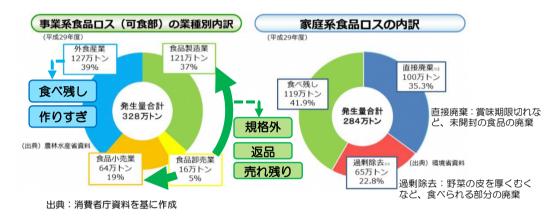


b. 活動の背景にあるもの

日本の | 年間の食品ロスの量は約 600 万トン。これは、東京ドーム 5 個分にもなります。日本では、食料の約 60%を海外から買っています。 食品を捨てることは、これを買うためのお金やエネルギーも無駄にしていることになります。

食品ロスは、食品関連事業者(農家、食品工場、スーパー、レストラン 等)と家庭から発生し、その要因は、「規格外」や「I/3 ルールにもとづく返品」、「売れ残り」、「食べ残し」などです。

これらの原因の中には、消費者の過度な鮮度意識が根底になっていることもあるため、消費者意識を変えていくことも重要となっています。



c. 取組と SDGsのつながり

食品ロスを削減することは、SDGsのターゲット 12.3 に寄与するだけでなく、同じゴール内のターゲット 12.2、12.5 の達成にも寄与します。また、有限な食料資源の効率的な利用が経済生産性及び資源効率の向上に寄与するため、ターゲット 8.2、8.4 も同時達成できると考えられます。また、食品廃棄物がごみとして燃やされる際に発生する CO_2 や、食品の輸送に関わる CO_2 発生も抑えることができ、13.2 の気候変動対策にもつながります。加えて、食品原材料の損失が減少したり、一部の地域に需要量を超えた食料が集中することがなくなれば、「ゴール 2 (飢餓)」にも貢献します。

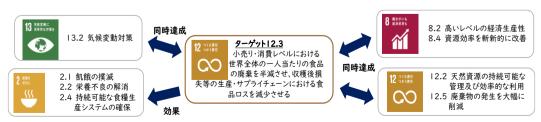


図 フードバンク事業と SDGsターゲットとの関係イメージ

②食のセーフティーネット事業

a.活動内容

貧困が引き起こすものはさまざまですが、すべては"食べ物がない"という問題にぶつかります。そのため、フードバンクでは、まず食料支援につなげます。

ただし、地域に潜在する要支援者(支援が本当に必要な子育て世帯)と繋がるのは、 当法人だけでは不可能です。そのため、行政機関や社会福祉協議会などのさまざまな支 援団体と連携して要支援者を見出し、食料支援につなげます。

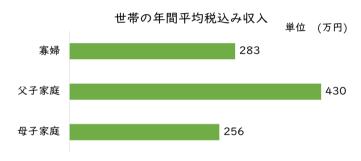
子ども食堂の役割として、地域の人と人をつなげ、支援を必要としている声をいち早く拾い上げるための基盤(プラットフォーム)となることが期待されます。



b. 活動の背景にあるもの

ライフアゲインでは、特に、経済的に苦しいとされている母子家庭を中心に支援を行っています。母子家庭は、一般の世帯の半分以下の世帯収入で生活しているとみられます。 平成 28 年度の北九州市の調査では、市内の母子世帯 14,708 世帯(同市総世帯数427,941 の3.44%)のうち、世帯年収300万円以下の母子世帯は70%以上となっています。同年の北九州市の平均世帯年収は約600万円であることから(北九州市統計年鑑)、相対的貧困状況にある母子世帯が多いことが推察されます。

当法人では、このような家庭が直面している、「貧困や孤立」、「十分な教育が受けられない」といった状況に対し、「食料支援」を軸としたさまざまな活動を展開しています。



(出典) 北九州市ひとり親世帯実態調査報告書(平成 28 年度)

c. 取組と SDGsのつながり

食料支援を行うことは、SDGsのターゲット2.1に寄与することが考えられます。この支援には、食品ロスを用いることで、ターゲット12.3や、取組を通じて要支援者の「貧困からの脱却」につなげることを踏まえると、ターゲット1.2や1.3にも効果があることが考えられます。また、食料支援を行うためには、当法人だけでなく、さまざまな団体とのパートナーシップを構築が必要となるため、ターゲット17.17に寄与する取組が必要となってきます。

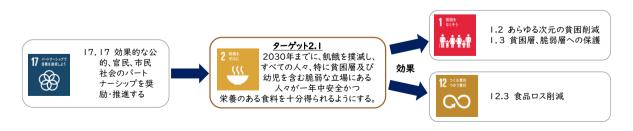


図 食のセーフティーネット事業と SDGsターゲットとの関係イメージ

③ファミリーサポート事業

a. 活動内容

家族が安全に健やかに暮らせる場であるためには、食料支援だけでは不十分で、法律 支援、就労支援、就学支援、保健支援、生活支援、学習支援、子育て支援などさまざまな 支援が必要とされます。

当法人の「つながり支援」は、生活困窮家庭に対し、相談等を行いながら一定期間食料支援をしながら自立できるようにサポートすると同時に、必要に応じてさまざまな支援を行っている行政・民間機関につなげる役割も果たしています。

子ども食堂は、地域をひとつの家庭とみなした取組です。子どもたちが一人で寂しく食事をすることなく、地域の方々と一緒に楽しく語り合いながら食事をし、お互いに顔見知りになることで、地域の相互扶助能力を高めることを目指しています。

また、子どもたちが自らの手で料理をしたり、食べ残しをしないなど、さまざまな経験やマナーも学んでいきます。地域の子ども会「もがるかキッズクラブ」では、田植えや稲刈り、餅つき、乗馬、磯遊びなど自然体験と仕事体験などを取り入れ、子どもたちの生きる力を養い、自己肯定感を醸成します。

さらに、学校での勉強をもっと楽しく感じてもらうために、子どもたちに学習支援を行っています。



b. 活動の背景にあるもの

子どもの貧困

1985年には子どもの貧困率は 10.9%でしたが、2012年には 16.3%、すなわち、6人に 1人の割合に達しています。その背景には日本の経済状況もありますが、離婚率の上昇もその一因と言えます。離婚後、また、非正規で働く女性の場合、子どもの高等教育機関への進学率が低いことが明らかになっています。

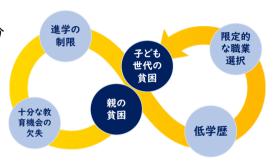


出典:※厚生労働省「国民生活基礎調査」

貧困の連鎖

世帯が経済的に貧しい場合、子どもに十分 な教育を受けさせることはむつかしく、子ども は進学をあきらめる傾向にあります。

学歴が低いと、限られた職業しか選べず、 自らが望まない低収入の職業に就かざるを 得ないこともあります。結果として、親の貧困



が子どもの貧困に繋がることになり、この貧困の連鎖を断ち切ることが求められます。

c. 取組と SDGsのつながり

生活困窮世帯の自立支援を行うことは、ターゲット 1.2 の貧困削減、10.1 の所得成長率改善に寄与することが考えられます。また、当法人の支援対象である女性の自立を促すことで、5.5 社会への女性の参画や、その子どもたちが高等教育を受けられることになることでターゲット 4.3 にもつながると考えられます。そのほかにもターゲット 3.4、3.d. につながるような健康サポートを行っていく予定としています。



図 ファミリーサポート事業と SDGsターゲットとの関係イメージ

4)普及啓発事業

a. 活動内容

先に紹介した私たちの活動内容について、より多くの方に知っていただく活動が「普及啓発活動」です。これは、活動内容を知るだけではなく、その活動の根源にある「子どもの貧困」や「食品ロス」の問題をより深く理解していただき、社会全体の意識の底上げを図る活動としています。主に、以下のような活動があります。

①情報発信



- ホームページ・SNS
- TV・ラジオ・新聞・雑誌等
- 年次報告書・ニュースレター

②セミナー・講演



- 講演会・研修会・セミナー
- 企業訪問

③普及啓発イベント



- フードドライブキャンペーン
- 食ロス スタディーツアー 等

4)ファンドレイジング

- ランチフォーチルドレン
- クラウドファンディング
- 寄付型自販機、古本寄付
- 募金箱設置
- 街頭活動 等





b. 活動の背景にあるもの

私たちは、食品ロス削減と子どもの貧困への取組を通して持続可能な社会を構築しようとしています。

その社会を実現するためには、環境や福祉の問題が個別に解決されるのではなく、それぞれの問題がつながっていることを認識し、分野を越えた連携がなされることが重要です。これには、産学官民すべてのステークホルダーが一体となり、行動を起こさなければならないと感じています。

以上のことから、まずは社会が抱えている課題をより多くの方に知っていただくことが重要であると考えています。また、これらに取り組み、団体の活動に参加するなど、それぞれが行動することで社会が抱えている課題を自分事として捉えることができるようになります。このような知識や経験をふまえて多くの人は課題解決のアクションを起こしていきます。このような一人ひとりの変化が徐々に社会に変革を起こし、大きな社会課題の壁に風穴を開けることができると考えています。この風穴を開ける事業が普及啓発事業です。

私たちが考える普及啓発事業は、社会課題へのアクションを起こす仲間を増やしていくことを目的としています。これは、その仲間と良好な関係を築き信頼感を醸成させていくPR(パブリックリレーションズ)活動とも言えます。

c. 取組と SDGsのつながり

普及啓発事業は、これまでに紹介した全ての SDG s に関わります。SDG s は、世の中の課題に関心を持つ人が増えれば増えるほど、より多くのゴールがより早く達成されることが考えられます。忙しい日々の中でも、身近な社会問題、環境問題に目を向けて、自分の考えを持つことや、小さなことでも行動してみることが SDG s へ向けてのとても重要な第一歩となります。

ライフアゲイン限定 T シャツ

"Everyone deserves to sparkle"
「誰もが輝く価値がある」

このメッセージを込めた T シャツは、ファンドレイジングの一環として限定販売されました。

T シャツデザインは、小さな芽を守るように、動物 や植物たちがその周りをやさしく、あたたかく囲ん でいます。

これは、子どもが健やかに成長できるように、大人たちが手を取り合いながら見守る社会をつくっていこうというメッセージを表現しています。



3 活動参加者・支援者などの声

- (1) スタディーツアー体験
- ▲ 小倉高校 |年 瀬川雄一朗

私はこのスタディーツアーで二つのことを学んだ。

一つ目は、「食品ロス」が深刻化する中で、それに対するさまざまな活動が行われていることだ。「もったいない」を「ありがとう」に変えるフードバンク事業の素晴らしさを知り、 食品を買いすぎないことや調理の時に残っている食材から使うことなど、私たちにもできることがあることを知った。

二つ目は、経済的に厳しい「子育て家庭への支援」という福祉活動が行われているということだ。中でも「子ども食堂」では、「孤食」を減らしたり、親同士のコミュニティを生んだりすることにもつながるのではないかと思った。



また、たくさんの方のお話を聞く中で、私は特に「アクションを起こせる若者へ」という言葉が心に残った。私にできるアクション、それはこの活動をより多くの人に知ってもらうことではないだろうか。このスタディーツアーで学んだことをたくさんの人に話し、少しでもこの活動に貢献できればいいなと思う。

▲ 九州共立大学 | 年 谷本潤

私は、フードロスについて無知であったため、ただ廃棄する食品が多いということだと勘違いしていた。そのため今回のツアーでは多くのことを学んだ。それらはどれも、私にとっては衝撃的な事実ばかりで、忘れられないものとなった。

コストコでは、売れ残りを廃棄するのではなく、フードバンクなどのさまざまな施設等に 寄付をすることで、ロスを減らす取り組みがあることを学んだ。今までは売れ残りは廃棄す るものだと思っていたため、そういったシステムがあることに驚いた。また、環境ミュージア

ムでは、SDGs の中にもフードロスに関わる目標が多数あることを理解することができた。特に I2 番の「つくる責任、つかう責任」という目標に関して、食料の生産と消費のシステムはまだまだ改善していけるのではないかと感じた。

他にも学ぶことが多いツアーだったが、今後はより深い部分についても自分なりに調べたいと思う。



▲ 北九州市立大学 3年 青山千紘

今回のスタディーツアーはコロナ禍、さらに今年初の外での大きな活動であった。前回は私たち北九州市立大学 三宅ゼミ生が企画・指導したが、今回は高校生の活動を 後ろからサポートするという形で携わった。



高校生らは事前学習を踏まえ、当日も楽しみながら真面

目に活動をしていたと思う。コストコではどのような店なのか、また、どんな物が販売されているのかを見学した後にバックヤードにて、実際に食品の受け渡しを体験してもらった。

フードバンクの車に頂いた食料品を積み込みながら、高校生らは「こんなに沢山のパンが捨てられそうだったのか。」「思っていたより量が多い!」など驚いている様子だった。その後は、フードバンク北九州ライフアゲインにて、さらに詳しい活動や理念についての説明、食料倉庫の見学を行った。

全体を通して、私自身、久々のフィールドワークがとても楽しく実りが多い時間だった。ま だ行動が狭まれる面も多いが、このような活動を続けていきたいと強く思う。

▲ 「インターンとしてライフアゲインに参加して」 曽我遥香



活動を共にさせていただいて一番感じたことは、原田さんと関係者の方のつながりの強さや人脈の広さです。それが、NPOを運営していくにあたってもっとも大切なことだと思います。企業の方、大学関係者、地域の方々、学校の先生、テレビ局関係者、農家の方など、代表がライフアゲインで活動を継

続されさまざまな意見を受け止め、改善に生かそうとされる姿勢によって作り出されたこの繋がりが、活動を支え続けていると思いました。常に謙虚であること、学ぶ姿勢を持つことが、本当の意味での協力者をつくり、支え合える関係性を築くことにつながると改めて学ばせていただきました。

大学生だからこそ義務教育下では養うことのできない社会の現実について触れ、自ら が置かれている立場を客観的に理解し、周囲や社会を思って具体的に行動することので きる人間性を形成することが、インターンとして NPO に参加する意味であると思います。

(2) ボランティアの活動を通じて

▲ つながり支援チーム 二口仁子

私は、代表の原田氏の弱者への思いや行動に共感し、活動に参加させていただいた。 つながりチームのメンバーとして、個人の要支援の方の食品受取りについて各区役所の いのちネット担当者と受取り期間や生活の現況、改善の道筋などの情報を共有しながら 支援の手伝いをしている。活動の中で気付いた点は、私が想像していた以上に困窮世帯



が多いこと、ひとり親世帯の生活の脆弱さ、両親揃っている世帯であっても成育歴や置かれた環境から十分に子どもたちに食事を与えられない状況の世帯が多いことだ。いま私は、チームで支援が必要な方々に心を配ること、寄り添うことの大切さを学んでいる。

● 竹村豊(インタヴュー)

ライフアゲインと縁が出来たのは、ライフアゲインの事務所の2階を、自分が立ち上げた 自助会キューピットの活動場所に貸してもらったことからだった。活動のメンバーから原田 さんを紹介してもらった。それから3年位前にボランティア説明会で原田さんの話を聞い て、ボランティアをやるようになった。フードバンクの食品の搬送や倉庫への運び込み、子 ども食堂のお手伝い、事務所のある中央町アーケードの掃除なんかをしている。

ライフアゲインのやっていることは人助けになっていて良いんじゃないかと思う。「子どもは宝」、いろいろなことを教えてあげないとだめ。虐待されていたら、他の人が優しく包んであげないといけない。家にも子どもがよく遊びに来たり、食事をしたりしている。ライフアゲ

インでもらったお菓子を仏壇にあげていると、お菓子を食べていいかと聞くから、「その前に仏様を拝んだら食べていい」というと、 拝んでから食べていたよ。

八幡は自分の育ったところだから、いつもきれいにしておきたい。毎日ライフアゲインのスタッフジャンパーを着てアーケードやその周りの掃除をしている。ライフアゲインが活動を広げるためには、地域の人に知ってもらわないとだめだからね。ライフアゲインの看板を背負っているから、これからもまじめに一所懸命やるよ。



●関わったきっかけ

父子家庭で育った私は「ななめの関係」の大人に助けられて育ったので、いつか親とは違う立場で子どもたちをサポートする「ななめの大人」になれたらと考えていました。行動を起こすきっかけになったのは新型コロナです。「いつかやろう」では後悔するかもしれない。そう考えて見つけたのがライフアゲインでした。

●関わって気づいたこと

学習支援に関わって気づいたのは、背景や得意なことは違っていても、みんなが「自分を持っている」ということです。腑に落ちたことはすっと体に入る一方で、納得できないことは入らない。大人と同じ学び方なので時間はかかります。「支援」ではなく、もっと理解しやすい説明はないか?を学び、さらに子どもたちの笑顔までもらえる場、と思っています。



▲ 「子ども食堂に参加して」 金丸文子

私が子ども食堂のお手伝いを始めて、3年位たちます。お手伝いを始めたころは、とても元気のよい子どもたちが多く驚きました。でも、一方で、その元気よさに圧倒されて、目を「パチクリ」させている子どもたちも見られました。半年位たつと、だんだん子どもたちも慣れ、自分の学習や運動等にも自主的に取り組むようになっていきました。

昨年の 12 月には、宗像へ自然体験に行きました。子どもたちは、ブランコを作ったり、



ハンモック等で楽しそうに遊んでいました。子どもたちが、 のびのびと活動しているのを見て、私も年齢を忘れて楽 しみましたし、いろいろな体験や思い出ができて、とても 良い一日でした。

私は、これからも子どもたちの成長を見守りながら、子ども食堂のお手伝いをしていきたちと思います。

(3)ライフアゲイン支援者の声

▲ 第一生命保険株式会社 木村真由美

以前より地域貢献に興味があり、身近に参加できる活動を模索していたところ、ライフアゲイン様の存在を知りました。少人数で始めた活動でしたが、子育て世代の女性が多く在籍している職場ということもあり、ライフアゲイン様のファミリーサポート事業に賛同



する仲間が次第に増え、今では定期的な食料支援等を行えるようになりました。活動を通じてフードロスと貧困問題の現状を知り、「少しずつでも私たちのできることをやらねば」という思いが皆に芽生えています。

小さな活動ではありますが、これからもフードバンク事業を通して地域の子育て支援に 関わり続け、またその輪が少しでも広がるように取り組んでいきたいと考えております。







<ライフアゲインから補足>

第一生命保険株式会社様からは、支社、オフィスごとにさまざまな取り組み、支援をしていただいています。スタッフ向けの講演、フードドライブ、古本の取組み、寄付つき自販機の設置、ご寄付などに取り組んでくださっています。

▲ 大英産業㈱ 武部秀基

●関わったきっかけ

弊社とライフアゲインさんとの出会いは、弊社の専務と原田さんが、休日の事務所前で 偶然出会ったのがきっかけでした。

●関わって感じた気付き、心の変化など

フードドライブキャンペーンに参加し、今までは、いつか食べる、今度食べようと、余り食材へ何気ない気持ちだったのが、「食」へ対する気持ちが大きく変わりました。

全社内に声かけを行うと、思いに共感してくれた数多くの社員から、フードが集まり、それもまた感動的でした。

北九州を持続させるために、弊社とライフアゲインさんとの協業がなくてはならないものと確信していますので、今後共、コラボしていきましょう!!







<ライフアゲインから補足>

大英産業株式会社様からは、寄付つき自販機の設置、ライフアゲインの子ども会活動"もがるかキッズクラブ"への大工さん派遣、木工づくりの資材提供などさまざまな取り組み、支援をしていただいています。また、ライフアゲインに無償で倉庫の提供をしてくださっています。

サンキュードラッグにライフアゲインのパンフレットが置いてあり、その中に寄付の振込用 紙が入っていたので寄付しやすかったです。以前から気にかけていました。

フードバンクは、企業や家庭からでた余分な食料を、困っている人たちに届けることで、 フードロス対策にもなるし、福祉対策にもなる。循環型の持続可能な社会をめざした活動 です。もっと広く知られて、活動が広がるとよいと思います。

子どもたちの将来を考えて、支援を始めました。すべての子どもたちに夢と希望を持ってほしい。子どもたちを応援しているライフアゲインを応援しています。

たまたま買い物に入ったスーパーマーケットの出入り口のテーブルの上に置いてあったパンフレットに気づいて手に取り、マンスリーサポーター申し込みのご連絡をさせていただきました。

「2019年次報告書」の中で、"あるお母さんからのメッセージ"を読みました。私も以前は保育士をしていたので、母子家庭の大変さはそれなりに理解していたつもりでしたが、現実はとても厳しいものだということを痛感し、思わず涙が出てしまいました。私の月々の寄付金で、わずかでも支援を必要としている方々へのお手伝いができたら幸いです。

また、寄付金以外でも、何かお手伝いすることができれば、させていただきたいと思っております。

※ マンスリーサポーターとは、銀行口座引落やクレジットカードによって毎月定額の寄付をして、支援を続けて下さる方々のことです。

(4) ライフアゲインの支援を受けて

● あるお母さんからのメッセージ(2019年次報告書に掲載)

はじめまして。今日、フードバンクを利用させていただきました。

母子家庭で余裕がないため、子どもは一人でお留守番させ仕事に行っています。それでも収入は減り、食費はかさみ…で困っておりました。実は、このような支援を受けることを、 恥ずかしいと思う偏見もありました。

しかし、今回初めて利用させていただき、本当に困ったときは、他の方に助けていただく 事も大切だと学びました。お米から、お菓子まで、配っていただき、本当に感謝です。一年 生になった娘も、いただいた食料を見て、「こんなにもらえたの? すごい! 嬉しい! チョコ もあるし、カルピスまであるよ!」とはしゃぎながら、すぐ冷蔵庫にカルピスを入れていました。 (笑)

娘の喜ぶ姿をみられたのも、フードバンク北九州ライフアゲインのおかげです。周りに困窮している方がいたら、このような支援があることを紹介させていただきたいと思います。 ありがとうございました。

→ ライフアゲインへの寄付に添えられた声

フードバンクの支援というものがあることを知って支援をしてもらいました。子どもたちに フードバンクの話をして、「誰かに何かをしてもらったら恩返しをしないといけないんだよ」 と言う事を知ってほしくて子どもたちと話合い、寄付で返そうということになりました。

子どもたちのお年玉を子どもたち自身で少しずつと家族一同で本当に少ない金額です が寄付させていただきました。

▲ 食品を受け取られて

お米もいただけるのですか? 本当に助かります。炊いても、炊いても足りないくらい食べる子どもたちがいるのです。育ち盛りの子どもたちに我慢はさせられないのに、削れるのは食費…。本当にありがとうございます。

4 持続可能な地域づくりのために

理事長 原田昌樹

この著作を終えるにあたって、私たちが何をお伝えしたかったのかを最後に振り返りながらまとめてみたいと思います。

最初に私たちは読者の皆様に、【I SDGsとは?】で、SDGsの言葉の説明からその成り立ち、環境とのかかわりについてお伝えしました。

その中で「地球の限界 (プラネタリー・バウンダリー)」について説明しました。それは、現在すでに地球システムの限界が明らかになっているということでした。人間が依存する自然に対してとりかえしのつかない変化が引き起こされ、すでに気候変動や生物多様性などは、境界を越えていると警鐘が鳴らされています。そして、環境、経済、社会の三つの柱のうち、環境は他の二つの柱の基礎となる大前提であり、地球環境の限界を超えて持続可能な発展はあり得ないことを強くお示ししたのです。

そして、このとりかえしのつかない変化が起きている地球環境を奇跡的に逆転させるには、あらゆる主体が連携し協力し合う「マルチステークホルダーパートナーシップ」が不可欠であり、政府、市民社会、民間セクター、国連機関などのパートナーシップなしには、持続可能な社会の実現はあり得ないことをお示ししたかったのです。

【2 ライフアゲインの活動(プロフィール及び事業)】では、地球規模のマクロ的な視野から、また、私たちの日常に則したミクロ的な視野から SDGsの活動を実感できるよう、ライフアゲインの活動を紹介しました。

最初に私自身の生い立ちを綴り、ライフアゲインを立ち上げた動機や活動の原点をお 伝えしましたが、皆様に届いたでしょうか。

そして、ライフアゲインの活動の一つひとつが SDGsの開発目標にどうつながっているかを説明しました。それは、マクロ的な見方として地球環境に生き続けてきた人類の歴史と、一人の人間のミクロ的な選択はつながっているということでした。皆様方読者一人ひとりの選択が、持続可能な社会を実現させる結果につながっていくことを理解していただきたいとの願いを込めました。

また同時に、環境課題である膨大な食品ロスの削減が、社会や経済の問題である多くの生活困窮者を支援することにつながり、更には SDGsの複数の開発目標に影響を与えていくことを実感していただけたのではないかと思います。

【3 活動参加者・支援者などの声】では、ライフアゲインの活動に参加された方々の体験談や支援者、支援を受けた方々の声を紹介させていただきました。持続可能な社会の実現は、今を生きるあなたのアクションによって可能となり、その活動によってあなた自身の人生が豊かにされていくことをお伝えするためです。

SDGsの開発目標の達成は、確かに地球レベルであり国連が発信した世界の運動ですが、実はその運動は、あなたが日常で身近に体験することができ、地球環境の改善に関わっている実感を覚えることができるものなのです。

最後にもう一度繰り返しお伝えさせてください。この地球は危機的な状態に陥っていることは事実です。このままいけばとりかえしのつかない変化が更に進んでいくでしょう。しかし、希望がないのでありません。あなたが、そしてあなたの隣人が、知人が、未来の地球を守る決意をし、子どもたちを守るために、今、何ができるかを真剣に考えてアクションを起こせば、奇跡は起こると信じています。未来の地球の持続と未来の子どもたちの笑顔は今を生きる私たちの行動にかかっているのです。

【5 参考情報】では、ライフアゲインが提供できる体験メニューや、他団体が提供されている研修メニューを紹介させていただいています。あなたが暮らしている身近な地域で、あなたにできるアクションを、さあ、立ち上がって、最初の一歩を踏み出しましょう!



5 参考情報

(1)ライフアゲインから提供できる活動・資料

【フードドライブ】

フードドライブは、各家庭の食品ロスを集めて支援に活かす仕組みです。

フードドライブの実施の方法を書いた『フードドライブ ハンドブック』、フードドライブに 必要な道具のセットを無料で提供します。数名のグループでも実施できます。

ご希望の方はご連絡ください。(ホームページから、事務所へのメール、電話など)

【スタディーツアー】

フードバンクの理念、「食品ロス」がどのように活かされていくのかなどを、実際の現場 を見ながら学べます。

「スタディーツアーの手引き」を提供できます。ご希望にそって計画を立てられます。 スタディーツアー紹介の動画 DVD もあります。

ご希望の方はご連絡ください。(ホームページから、事務所へのメール、電話など)

【講師派遣】

SGDs について、フードバンクについて、子育て支援についてなどのテーマについて講師を派遣できます。ご希望の方は、ご相談ください。

【古本募金】

ライフアゲインは、「つなぐ書店」様と連携して、古本による募金活動を行っています。 つなぐ書店では、さまざまな障がいを持たれる方々の仕事づくりとしてこの事業が行われています。段ボール箱に古本と古本チラシの「ライフアゲインへの寄付申込書」を入れて、つなぐ書店へ着払いで送っていただけると、その買取り料金がライフアゲインへ寄付されます。取扱い可能なもの不可能なものはチラシに記載しておりますので、ご覧ください。古本チラシ(ライフアゲインへの寄付申込書)をご希望の方は、事務所にご連絡ください。また、古本チラシはホームページからダウンロードもできます。

【ボランティア活動の場】

食品回収、食品仕分け、子ども食堂(尾倉っ子ホーム)、学習支援など、さまざまなボランティア活動の場があります。

ご希望の方はご連絡ください。(ホームページから、事務所へのメール、電話など)

(2) SDGs参考情報

SDGsの体験会・社員研修・経営戦略をサポートする個人・団体(敬称略)

○TSUNAGU 行政書士事務所

担当者:林 直美(はやし なおみ)

<実施している内容>

- ★SDGsカードゲームによる SDGs体感講座(約2時間)
- ★SDGs社員研修(初級・SDGsを知る・必要性を考える)

電話:093-883-6339 メール:moyashi.rinchan@amail.com

〇社会起業大学:九州校

担当者:阿武 勲(あんの いさお)

<実施している内容>

- ★SDGsカードゲームによる SDGs体感講座(約2時間)
- ★SDGs社員研修(初級·SDGsを知る·必要性を考える 等)
- ★SDGs社員研修(中級、事業における優先課題を見出す 等)
- ★SDGs に関する事業戦略策定支援
- ★SDGs を踏まえた中期経営計画作成支援

電話:093-513-0003

FAX:093-513-0004

http://kyushu.socialvalue.jp/

メール:anno@kyushu.socialvalue.jp

○有限会社コ・リード

担当者:本山 晴子(もとやま はるこ)

<実施している内容>

- ★SDGsカードゲームによる SDGs体感講座(約2時間)
- ★SDGs社員研修(初級·SDGsを知る·必要性を考える 等)
- ★SDGs社員研修(中級、事業における優先課題を見出す 等)
- ★SDGs レポートの作成
- ★SDGs に関する事業戦略策定支援
- ★SDGs を踏まえた中期経営計画作成支援
- ★SDGs新規事業の立ち上げ

(SDGs ベースの事業展開、新規事業支援実績あり)

電話:093-616-1994 (直通:090-9076-4607)

メール:haruko@colead.co.ip



『参加から学ぶ SDGs』

~フードバンク北九州ライフアゲインの活動を通して~

令和 2 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 発行日 令和3年2月28日

企 画 特定非営利活動法人

フードバンク北九州ライフアゲイン

編 集 特定非営利活動法人フードバンク北九州

ライフアゲイン 理事会

表 紙 池上 美由紀

発 行 特定非営利活動法人

フードバンク北九州ライフアゲイン

住 所 福岡県北九州市八幡東区中央 2 丁目 14-17

SUSTAINABLE GALS DEVELOPMENT







































特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン

〒805-0019 福岡県北九州市八幡東区中央 2 丁目 14-17

TEL:093-672-5347 / FAX:093-671-2395

HP: https://fbkitaq.net/ E-mail: info@fbkitaq.net

窓口受付: 月・水・金 (祝日を除く) 10:00~16:00



HP 検索







